



# 銀河連邦



## 友好交流25周年

銀河連邦設立 1987年(昭和62年)11月8日

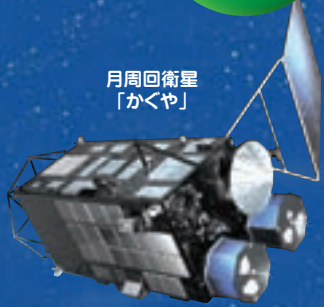


### 銀河連邦の目的

銀河連邦は、宇宙開発の最先端技術を研究している宇宙航空研究開発機構(JAXA)の宇宙科学研究施設がある6つの市町が、ユーモアとパロディの精神で連邦国家を組織し、それぞれの共和国が手を取り合い、相互の理解と親善を深めることにより、宇宙平和の一翼を担うとともに、人々の笑顔あふれるユートピアの創造をめざしています。

子どもたちの留学交流事業をはじめ、スポーツ交流や経済交流などを通じて友好を深め、相互の発展と宇宙への夢とロマンを育むことを目的としています。

月周回衛星「かくや」



### タイキ共和国

北海道大樹町  
〔大樹航空宇宙実験場〕

この実験場は、大樹町とJAXAとの連携協力拠点で、実験用航空機を用いたさまざまな飛行実験や、大気球による宇宙科学実験を行っています。



### ノシロ共和国

秋田県能代市  
〔能代ロケット実験場〕

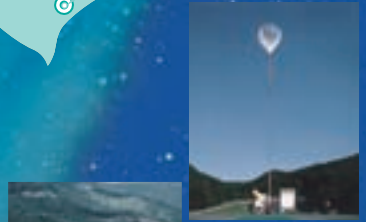
この実験場では、固体ロケットモータの試験や再利用ロケットエンジンなどの燃焼実験を行っています。また、将来型の高性能エンジンの性能を確認するための地上試験も行っています。



### サク共和国

長野県佐久市  
〔白田宇宙空間観測所〕

この観測所では、惑星や彗星のような天体に接近して観測を行う深宇宙探査機に向けての動作指令を送信したり、探査機からの観測データを受信しています。直径64mを誇る大パラボラアンテナ。深宇宙への扉はここから開かれます。



### サンリク オオフナト共和国

岩手県大船渡市  
〔三陸大気球観測所〕

科学観測用大気球を飛揚する施設として、観測器を載せた大気球が、この観測所から成層圏、宇宙圏を目指して飛び立っていきます。(H19.9.29開所)



小惑星探査機「はやぶさ」



### サガミハラ共和国

神奈川県相模原市  
〔宇宙科学研究所  
相模原キャンパス〕

宇宙科学研究の研究拠点である相模原キャンパスは、丹沢山地を望む静かな環境に囲まれ、研究・管理棟、研究センター、ロケット・人工衛星搭載機器の基礎開発・試験を行う特殊実験棟が設置されています。

### ウチノウラ キモツキ共和国

鹿児島県肝付町

〔内之浦宇宙空間観測所〕

この観測所では、科学観測ロケットや科学衛星の打ち上げ、そして、それらの追跡及びデータ取得等の業務を行っています。





さらに深まる交流の絆

# 銀河連邦25年間の取り組みとこれから



銀河連邦は、昭和62年11月8日に、JAXAの宇宙科学研究施設が縁で交流を始めた5つの市町（現在は4市2町）が、ユーモアとパロディの精神で共和国名を名乗り、連邦国家を組織したことが始まりです。

銀河連邦では各共和国が手を取り合い、さまざまな交流事業などを通して、相互の理解と親善を深めることで宇宙平和の一翼を担うとともに、人々の笑顔あふれるユートピアの創造をめざしています。また、東日本大震災での大船渡市への支援活動を通して、各共和国の絆もさらに深まりました。



子ども留学交流（ウチノウラキモツキ共和国）

## ★子ども留学交流

銀河連邦の大きな財産でもある、輝く子どもたちを育むため、各共和国の特色を生かした体験型交流を行っています。



サク共和国で行われた子ども留学交流（写真右、上）

## ★スポーツ交流

サッカーやスケート、マラソン大会などが実施され、スポーツ精神を育み、一緒に汗を流すことで絆を深めています。



「うちのうら銀河マラソン」



サク共和国「銀河連邦星の町スピードスケート親善大会」

## ★経済交流

各共和国で開催されるイベントでの物産展などを通して、各共和国の特産品をPRするなど、地域経済の活性化につなげています。



サンリクオオフナト共和国から直送されたサンマを使い商店街で開催されるサンマまつり



サガミハラ共和国「市民桜まつり」での物産展

## ★東日本大震災での取り組み

銀河連邦を構成する市町では、平成8年から、災害が発生した場合の応援、復旧にかかる相互応援協定を締結しています。

東日本大震災では、銀河連邦の一員である大船渡市が甚大な被害を受けたことから、銀河連邦を構成する市町が発災直後から支援活動にあたりました。

各市町から支援物資や、義援金が届けられたほか、さまざまな職種の職員を派遣するなどの取り組みを現在も継続して実施しています。

これらの活動を通して、銀河連邦の絆もさらに深まりました。



大船渡市で支援活動にあたる銀河連邦共和国の職員



提供:池下章裕

## ★ 6月13日 「はやぶさの日」 を制定 ★

小惑星探査機「はやぶさ」が、60億キロ、7年もの長旅の末に地球に帰還し、数々の科学的偉業を成し遂げたことを称え、開発、運用に関わった人々の「あきらめない心」、「努力する心」を全国の方々に伝え続けていこうと、銀河連邦では、「はやぶさ」が帰還した6月13日を「はやぶさの日」と制定しました。

平成24年6月13日に、日本記念日協会（写真左）から銀河連邦本部代表 サガミハラ共和国大統領 加山俊夫相模原市長（写真右）へ記念日登録証が授与されました。お立ち会いただいたJAXAの川口淳一郎教授（写真中央）からは、「この日が困難なことに向けて独創性を発揮できる記念日になれば」とのお言葉を頂きました。

銀河連邦では、「はやぶさの日」に相応しい事業を来年以降も実施してまいります。

